

超アクティブファンドの薦め (資産形成コラム)

貯蓄から投資へとと言われて久しく、「アベノミクス」はもう一昔前・10年前の言葉となりました。『新しい資本主義』が現在の岸田政権の経済政策の看板で、「成長と分配」もこれまた久しく言われ続けています。皆さんも、少なからず投資、運用、資産形成を始めておられると思いますし、すでにきちんと資産を構築されている方も多いと思います。IDECOやNISAのような国の施策も毎日のように経済ニュースで持てはやされています。

そこで出てくる専門用語の1つ、**インデックスファンドとアクティブファンド**について、今コラムでは簡単に解説し、テーマになっている超アクティブファンドについても私の見解を記したいと思います。

まずはインデックスファンドについて、インデックスファンドとは市場全体の動きを表す代表的な指数に連動した成果を目指す投資信託です。別名、パッシブファンドとも呼ばれます。ここで言う代表的な指数とは、日経平均株価やTOPIX、NYダウと言った、日本でも毎日朝昼夜のニュースで報じられ、スマホでいつでも見れる指数のことです。そのた

め、特徴としては値動きが分かりやすく、雑駁な表現ですが市場に連動させているだけなので、管理が容易で運用コストが比較的安く設定されています。ここで言う運用コストとは、インデックスファンドを運用・管理するための信託報酬や手数料になります。また、値動きが分かりやすいとは具体的に日経平均株価・日経 225（東京証券取引所・東証のプライム市場に上場する約 2000 銘柄の中から日本経済新聞社が選定した 225 銘柄の平均株価※もちろんソニーグループも含まれています。）は平日の午前 9 時から昼休憩を挟んで午後 3 時まで売買が行われていて、ニュース等で報道されるので、投資先のインデックスファンドも連動して同じような値動きになります。ただし、225 銘柄の平均になるのでご存じのようにそれ程大きな成長は期待出来ません。事実、日経平均株価は過去最高 1989 年 12 月 29 日の 38,915 円 87 銭で 2023 年 8 月現在、一度も更新することが出来ていません。ちなみに過去最低は 2008 年 10 月 27 日の終値 7,162 円 90 銭です。過去 30 年間で日本経済があまり成長していない実態がなんとなく株価からも見えてくると思います。このような値動き（成長していない）をするファンドでも十分と言うか、しっかりと資産形成出来る投資方法はありますので、ご興味あれば個別にお問合せください。分かりやすく説明しますし、実は全く難しい方法ではありません。また、先程出

て来た代表的な指数T O P I XとN Yダウについては、別の機会に説明します。

次に、アクティブファンドについて、先程のインデックスファンドとは違い、代表的な指数をベンチマーク（基準）として、それを上回るような運用を目指しています。ここで大切なのが、あくまでも上回ることを目指しているという事です。必ず上回る訳ではなく、実際はベンチマークに連動しているインデックスファンドよりも運用実績が低い結果になっているアクティブファンドもあります。また、ベンチマークを上回る運用を目指すために、専門家（ファンドマネージャー）によって綿密且つ詳細な組入銘柄の調査や分析が必要になります。その分、手数料がインデックスファンドと比べて高くなります。つまり、専門家に支払う手数料以上に運用成果が出ないと、ベンチマークを上回るような結果は出せないという事です。ここまで見ると、インデックスファンドの方が手堅い印象を受けますし、事実伝説の投資家として周知のウォーレン・バフェット氏が「すべての投資家が学ぶべき新しい事実」と評価した経済学者ジェーレミー・シゲル著『株式投資の未来』やミューチュアルファンドのバンガード・グループ創業者のジョン・C・ボーグル氏も言及しているように、過去の実

績から見るとアクティブファンドよりもインデックスファンドの方が総じて（決して全てではない）好結果を残しているようです。しかし、ここまでの情報は所謂一般的なFP（ファイナンシャルプランナー）やインターネット・動画などで誰でも発信できる範囲の話です。言い方は悪いですが、理論だけの実践の伴わない人たちの情報のように感じますし、インデックスファンドよりも好成績を出し続けているアクティブファンドを知らないだけかもしれません。先程の名著の情報の一部を切り抜いて、ありきたりなインデックスファンドを進めています。手数料が安いという点でいかにも安い・お手軽という印象を与えているに過ぎません。私はどちらかのファンドが優れていて、もう一方が劣っていると言いたい訳ではなく、それぞれ特徴があり、それらを理解して自身の資産形成を行っていく必要があると考えています。そのため、皆さんが目にしやすいインターネットの偏った情報において、アクティブファンドは手数料が高くファンドマネージャーが多額の手数料を得ているだけなので、手数料の安いインデックスファンドを選びましょう、といった十分とは言えない情報だけで判断してほしくないと思います。手数料は高いアクティブファンドで優秀な成果を上げているファンドは実際に存在します。詳細は実践者でもある私にご相談いただければ、きちんとお伝えさせていただきます。

2つのファンドを簡単にと言いつつ中々の分量になってきたので、本題の超アクティブファンドに話を移したいと思います。

最後に本題の、超アクティブファンドについて、『超アクティブファンド』とは私が勝手に表現しているだけの一種の比喻です。特徴として運用していくためにはアクティブファンドとは比べ物にならない程の多大なコストが必要ですが、その分そのコストに見合った多くの利益を生み出します。一般的にはコスト以上の利益を生み出しているけど、時にコストが利益を上回っている状態も散見されます。そう、私の考える『超アクティブファンド』とは『人』です。人は通常、多くの利益を生み出します。大人は分かりやすく、仕事で収入を稼ぎます。主婦・主夫のような仕事も数字でいくら稼いだかは分からなくても、多くの利益を家族に与えます。仕事をしていない子どもも、毎日多くの利益を家族に与えています。そう言った意味で、私は全ての人は一般的な株や投資信託や債券よりも多くの利益を生み出していると思います。仮にある男性A・35歳は会社員勤めをしていて、年収550万円。家族は専業主婦で同級生の妻と小学生の男女の子ども2人。住宅ローンや食費や医療費等、毎月の支出は25万~30万。貯蓄や資産形成は月に5万円程度。こんな家庭があったとして、それ

それが多くの利益を生み出していると思います。繰り返しになりますが、利益とは一概にお金ではありません。しかも、毎月余ったお金を将来のための貯蓄や資産形成に回しています。一方、この家庭を維持していくためには多くのコストがかかります。食費はもちろん、住宅費、バカにならないのが子どもの教育費。そして、この超アクティブファンドはそれぞれが健康である時が、一番良い成果をあげることが出来るので、そのためのレジャー費や健康管理も兼ねた医療費等、運用・生活していくためには多くのコスト・支出が必要です。と、当たり前のことを言っているだけで、要するに人に投資することがいかに効率が良く、現在から将来に渡って多くの利益・価値を生み出すかということだと思います。子どもに係るさまざまな費用も、投資だと思えば将来が楽しみになります。ただし、投資と消費と浪費は大きく違うので、この考え方についてはまた別の機会です。

以上、インデックスファンドとアクティブファンド、合わせて全くの私見の超アクティブファンドについて書いてきましたが、至極当たり前のことだったと思います。ただ、多くの場合当たり前過ぎて大切なことが見えていないという事は沢山あると思います。お金をどう使うか、今使ってい

るお金は投資なのか一般的な消費なのか、それともたんなる浪費なのか？
時に考えてみるのも良いかもしれませんね。ちなみに私は家族からは「や
めたら〜」と言われているお酒を、毎日意味も無く単なる習慣で飲み続け
ています。超アクティブファンドとは本当に過大なコストがかかるもので
すね・・・・・・・・

ソニー生命保険(株) 大分支社
〒 870-0029 大分市高砂町 2-50
オアシスひろば 21 9 階
TEL 097-532-9200
ライフプランナー 山田新悟